

一般財団法人
飛騨高山大学連携センター



令和6年度 事業報告書

Hida-takayama
Research Center of
Regional Revitalization

令和7年5月作成
一般財団法人
飛騨高山大学連携センター

目 次

大学等来訪実績

来訪実績	1
------	---

自治体シンクタンク事業

実施事業	2
コロナ禍における経済対策の市内経済への影響等調査	3
介護分野におけるDX導入のための調査研究	4
福祉分野における人材確保のための調査研究	5
中部山岳国立公園の活性化の推進に向けた取り組み	6
ヘルスツーリズムの推進に向けた取り組み	7
公共交通機関の観光活用に関する調査研究	8
大学等と連携した中小企業の研究開発支援	9

大学コミッション事業

大学活動の支援メニュー	10
大学のゼミ合宿等の活動に対する支援（ゼミ合宿等支援事業補助金）	10
主な受入大学	11
・名古屋学院大学 外国語学部	11
・名古屋経済大学 経済学部	11
・國學院大學 観光まちづくり学部	12
・愛知大学 地域政策学部	12
・大阪体育大学 バスケットボール部	13
・名城大学 陸上部	13
・金沢学院大学 陸上競技部	14
・岐阜女子大学 書道部	14

高校生学習支援

斐太高等学校地域活性化プログラム研究活動に対する支援	15
----------------------------	----

飛騨高山学会

飛騨高山学会の開催	16
-----------	----

その他事業

ウェブサイト・SNS 等による情報発信・情報提供	17
--------------------------	----

来訪実績

令和6年度実績

人数（延べ）	滞在日数	大学数
1，663人	5，384日	49大学

令和6年度 大学等来訪実績 ※関与分

月	来訪者		来訪理由					
	人数	滞在日数	シンクタンク（産学金官含む）		コミッション		その他	
			人数	滞在日数	人数	滞在日数	人数	滞在日数
令和6年4月	7人	7日	2人	2日	2人	2日	3人	3日
5月	69人	177日	2人	3日	62人	169日	5人	5日
6月	26人	68日	2人	4日	20人	60日	4人	4日
7月	15人	34日	2人	3日	4人	14日	9人	17日
8月	592人	2,205日	1人	3日	589人	2,198日	2人	4日
9月	548人	1,923日	26人	72日	522人	1,851日	0人	0日
10月	1人	2日	1人	2日	0人	0日	0人	0日
11月	80人	125日	44人	46日	36人	79日	0人	0日
12月	40人	151日	5人	44日	35人	107日	0人	0日
令和7年1月	38人	75日	2人	4日	34人	69日	2人	2日
2月	183人	458日	8人	16日	170人	433日	5人	9日
3月	64人	159日	3人	6日	59人	151日	2人	2日
合 計	1,663人	5,384日	98人	205日	1,533人	5,133日	32人	46日

【参考：過去5年間の実績】

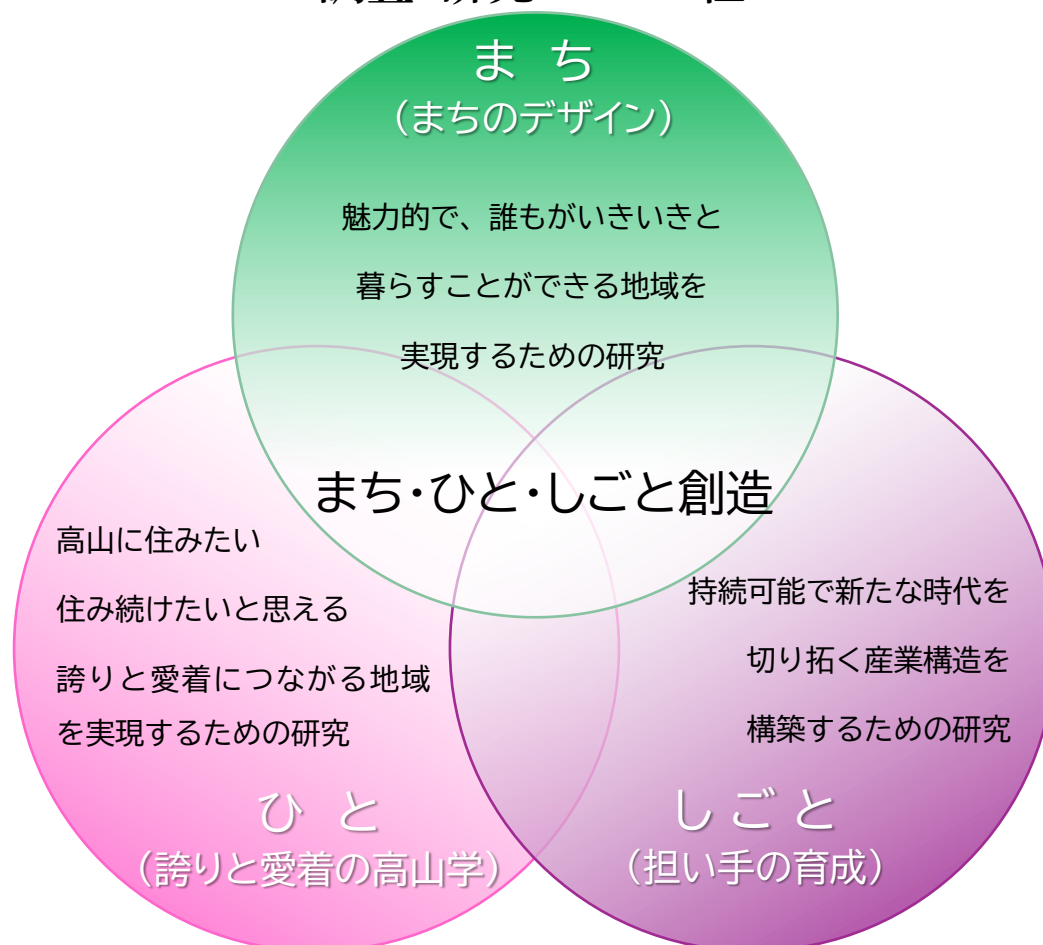
年 度	人数（延べ）	滞在日数	大学数
令和5	1，299人	3，002日	38大学
令和4	426人	814日	31大学
令和3	113人	252日	18大学
令和2	120人	214日	24大学
平成31	924人	1，997日	35大学

大学が保有する高度で専門的な知見を活用し、高山市の「政策研究活動の充実・強化」「行政課題や地域産業、地域コミュニティ等に関する問題・課題の解決」「地方創生を担う人材の育成・確保」などの自治体シンクタンク事業に実践的に取り組んだ。

実施事業

- コロナ禍における経済対策の市内経済への影響等調査
- 介護分野におけるDX導入のための調査研究
- 福祉分野における人材確保のための調査研究
- 中部山岳国立公園の活性化の推進に向けた取り組み
- ヘルスツーリズムの推進に向けた取り組み
- 公共交通機関の観光活用に関する調査研究
- 大学等と連携した中小企業の研究開発支援

調査・研究の3つの柱



コロナ禍における経済対策の市内経済への影響等調査

【実施形態】

高山市委託（受託）事業

【連携大学】

愛知大学 地域政策学部



ヒアリング調査

【目的】

昨年度の研究成果を踏まえた上で、アフターコロナ時代の持続可能な地域づくりを導くための財政運営における課題等について検討する。また、アフターコロナ時代の持続可能な地域づくりを展望するに当たって、特に、持続可能性の観点に立ち、人口減少が加速する支所地域に焦点を当て、支所地域の地域資源を活用した高付加価値型ツーリズムの可能性について検討を行う。

【実施概要】

1 アフターコロナ時代の持続可能な地域づくりを導くための財政運営について

- (1)市や金融機関の動向の把握
- (2)市の財政運営の検証

2 支所地域の地域資源を活用した高付加価値型ツーリズムの可能性について

- (1)先進事例の把握
- (2)支所地域の地域振興に関する取組の把握
- (3)観光振興等に関する取組実態の把握

3 現地調査の実施

(1)高山市高根町

期日：令和6年8月22日(木)～23日(金)

令和7年1月11日(土)～12日(日)

対象：高根まちづくりの会

(2)高山市内

期日：令和6年9月9日(月)～11日(水)

対象：高山市役所（商工労働部、財政課、観光課）、県信用保証協会、
奥飛騨ビジターセンター、奥飛騨温泉郷観光協会、
ひだ桃源郷くぐの観光協会、観光事業者、金融機関、ホテル事業者など



ヒアリング調査

【成果等】

- ・高山市が持続可能であるためには、支所地域における地域資源を生かした内発的な観光振興の動きを財政面を含めてサポートする必要があることを、アフターコロナ時代における市の課題として明らかにした。
- ・支所地域において、内発的な発展を基礎とした高付加価値型ツーリズムを展開することが支所地域存続の鍵であるとし、支所地域における高付加価値型ツーリズムの取組みへの宿泊税の重点配分や民間によるファンド設立等について具体的な考え方を提示した。
- ・高根地域においては、住民の意識調査を踏まえるとともに、上記の考え方にに基づき、観光振興のための新たな組織の設置と地域おこし協力隊員の導入の必要性を地域住民に対し提示した。

介護分野におけるDX導入のための調査研究

【実施形態】

高山市委託（受託）事業

【連携大学】

東京都市大学 都市生活学部



ヒアリング調査

【目的】

本研究は、高山市において深刻化する介護人材の不足という課題に対し、その背景にある介護現場の実態と課題を明らかにするとともに、DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入による業務効率化や負担軽減の可能性を検討・提案することを目的とする。

【実施概要】

DX 分野の急速な進展を踏まえ、前年度ヒアリングの継続として、直近の DX 導入状況や運用上の新たな課題、今後の展望等を把握するため、以下の関係機関・団体へのヒアリング調査と、先進技術の視察のため、最新の市場動向を調査した。

1 ヒアリング実施概要

(1)市内介護事業所（3 か所） 令和6年5月19日(日)～21日(火)

テーマ：DX 導入の進捗と新たな課題

(2)市行政経営課 令和6年7月5日(金)

テーマ：市の DX 推進状況

(3)市都市計画課 令和6年7月5日(金)

テーマ：ライドシェアの取組状況

(4)高根まちづくりの会 令和6年8月26日(月)

テーマ：買い物支援の取組状況

(5)市内タクシー事業所 令和6年8月26日(月)

テーマ：送迎管理システム（仮称）の検討状況

(6)江名子校区まちづくり協議会 令和7年1月25日(土)

テーマ：地域乗合による外出支援の取組状況



ヒアリング調査

2 最新の市場動向の調査

第7回介護・福祉 EXPO 東京を視察（介護システム・機器や人材サービス事業者が出展）

開催：令和6年10月4日(金)／幕張メッセ



市場調査

【成果等】

- ・地域住民等が主導するモビリティ支援において、予約・配車・利用データ管理のDX化は運営効率と利用満足度の向上に寄与し、交通空白地の支援策として有効であると提示した。
- ・転倒予測を含むAI活用は注目されているが、現段階では精度や倫理、コスト面で課題が多く、今後の開発支援と国内企業の参入促進が求められると提示した。
- ・ICT・AIを活用した記録支援ツールや見守りシステムの導入は、業務効率化に加え、特に外国人介護人材の定着支援にも有効であると提示した。
- ・DX推進には、現場職員の理解と協働を前提とした導入プロセス設計が不可欠であり、制度的支援や地域内の連携体制整備と併せて進める必要があると提示した。

福祉分野における人材確保のための調査研究

【実施形態】

高山市委託（受託）事業

【連携（協力）大学】

同朋大学 社会福祉学部
名古屋造形 大学空間作法領域



介護施設での研修の様子

【目的】

全国の福祉分野の人材について、現役世代の急減による担い手不足の加速化と、就業者数の減少から、福祉分野の人材不足が問題視されており、地域内の人材確保も課題となっている。本研究では、福祉・看護現場における人材不足の軽減を目的とし、移住促進を通じて介護事業所への就労につなげることを目指す。そのため、体験研修の実施や、飛騨高山での就労に対する大学生の意識調査などを行う。

【実施概要】

1 体験研修の実施

研修名：「飛騨高山の介護福祉と飛騨高山の魅力を体験」

期 日：令和7年2月10日(月)～11日(火)

参加者：計7名（同朋大学社会福祉学部 学生4名、
名古屋造形大学 学生2名、引率者1名）

研修先：

- 初 日 (1)介護事業所での研修（市内通所サービス等事業所）
(2)飛騨高山での体験（市内家具製造所）

- 二日目 (1)介護事業所での研修（市内グループホーム事業所）
(2)飛騨高山での体験（市内体験事業所・飛騨高山まちの体験交流館）



体験及び市内散策の様子

2 飛騨高山で働くことに対する大学生の意識調査（アンケート）の実施

- (1)事前アンケート（訪問前の高山市・介護福祉に対するイメージ）
(2)訪問中アンケート（実際の体験後の印象・感想）
(3)帰宅後アンケート（訪問を終えた後の評価・就労意向）

【成果等】

- ・体験研修を通じて都市部の若者が飛騨高山に対する関心を高め、介護福祉分野での就労を「想像より働きやすそう」「地域の温かさが魅力」と具体的にイメージできたことが挙げられる。こうしたポジティブな認識の変化は、移住促進や人材確保に向けた施策の有効性を示す重要な知見であり、地域資源を活かした研修機会の提供が若年層の意識形成に寄与することが明らかとなった。

中部山岳国立公園の活性化の推進に向けた取り組み

【実施形態】

受託研究事業（岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会）

【目的】

岐阜県中部山岳国立公園の魅力を広く周知し、観光誘客や自然保護意識の醸成に繋げることを目的に、地元小学生・中学生・高校や全国の大学生及び企業等による岐阜県中部山岳国立公園及びその周辺地域の活性化プログラムを募集するとともに、その成果発表や当該地域をフィールドに活動している大学研究者等による研究成果の報告等を行う発表会（以下「研究成果発表会」という。）を開催する。

【実施概要】

- 1 実施期間：令和6年4月18日～令和7年3月7日
- 2 活性化プログラム研究の募集、活動支援及び発表会開催業務

《採用高等学校》

- ・岐阜県立飛騨高山高等学校

《採用大学》

- ・文教大学
- ・名古屋外国語大学
- ・東京都市大学



奥飛騨フィールドワーク
（飛騨高山高等学校）



現地調査（文教大学）

3 研究成果発表会の実施

第6回飛騨高山学会にて、採用者による研究成果を発表



発表ステージ（飛騨高山高等学校・文教大学・名古屋外国語大学・東京都市大学）

【成果等】

- ・研究成果発表会において、“高校生 勝手に地元応援プロジェクト”～高付加価値旅行者をターゲットにした観光資源発掘と情報発信～（飛騨高等学校）、飛騨高山の魅力を発信するための仕組みの提案～奥飛騨ビジターセンターを例として～（文教大学）、奥飛騨温泉郷の旅館における夏期インターンシップ事業の試み（名古屋外国語大学）、飛騨の木材と匠の技を活かした現代都市生活支援製品の市場性（東京都市大学）について発表した。
- ・令和7年度は、一部事業を見直し継続事業として実施予定。

ヘルスツーリズムの推進に向けた取り組み

【実施形態】

自主研究事業

【連携大学】

松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科

【目的】

高山市全域での観光消費拡大と持続可能な発展に向け、市街地の歴史的資源と支所地域の滞在・体験型観光を連携し、健康志向に対応した地域資源によるヘルスツーリズムの構築を目指す。その一環として、久々野地域でモデルツアーを企画・検証し、地域間連携による観光地域づくりのデザインを提示する。



意見交換

【実施概要】

久々野地域における自然資源や伝統的な食文化、文化的遺産などの観光資源について文献および現地調査により整理・分析を行い、その成果を踏まえて地域住民との意見交換を実施し、観光地域づくりのデザインを提示に向け、モデルツアーの企画と実地検証を実施。

1 観光資源調査の実施

- (1) e バイクを使用した調査として、久々野地域の自然資源、伝統的な食文化など、ヘルスツーリズムの視点でモデルツアーの企画・検証のための現地調査や、地域の関係者との地域資源活用の意見交換を実施。

期日：令和6年6月2日(日)～3日(月)

場所：久々野地域ほか



- (2) VISIT 岐阜県森フェス「苔むす森を満喫する旅 (E-BIKE&森林浴)」ツアー参加による調査の実施。

期日：令和6年11月3日(日)～11月4日(月)

場所：久々野地域



久々野地域の観光資源等の調査の様子

2 報告会

- (1) 第7回飛騨高山学会での中間報告

期日：令和6年11月30日(土)

- (2) 調査研究報告会

期日：令和7年3月6日(木)

場所：久々野多目的センター 会議室



第7回飛騨高山学会



調査研究報告会

【成果等】

- 本研究により、久々野地区の豊かな森林・文化資源を基盤に、心身と精神の回復を志向するホリスティック・ウェルネス型のヘルスツーリズムモデル「飛騨の森時間～あららぎ湖と無数河林道～」を取りまとめることができた。
- 観光地域づくりのデザイン案として、本ツアーを観光商品として実現・定着させるためには、自転車拠点となる「くぐの Gateway」の整備をはじめ、地域資源を活かしたルート設計、体験プログラムを担うガイドの育成、さらには民間との連携による観光拠点や交通環境の整備が不可欠であることを地域住民に対し提示した。

公共交通機関の観光活用に関する調査研究

【実施形態】

自主研究事業

【連携大学】

國學院大学 観光まちづくり学部

【目的】

「合併から18年を経て、旧町村部がどう誇りをもって生き抜いていくか」を大テーマとし、主要な方策として「観光を活用した持続可能な地域づくり」を置き、公共交通機関の更なる観光活用を通じて、高山地域に集中するインバウンドを中心とした観光客の支所地域への分散を図ることによって、支所地域の活性化につなげるための施策等について調査研究を行う。

【実施概要】

1 地域資源の調査及び地域周辺のステークホルダー等との意見交換

期日：令和6年8月6日(火)～7日(水)

場所：一之宮地域（水無神社、常泉寺川、往還寺、位山交流広場、

JR 飛騨一ノ宮駅、臥龍桜、飛騨位山文化交流館、一位笠、ツメタの大イチイなど

2 地域資源の調査及び地域のステークホルダー等との意見交換

期日：令和6年10月5日(土)～6日(日)

場所：久々野地域（JR 久々野駅、もだに農園、飛騨高山ワインアポセカリー、ヒュッテ ア・ミュー、下本農園、堂之上遺跡・歴史民俗資料館、坂本酒店、道の駅飛騨街道なぎさ、あららぎ湖、無数河林道、アルコピア、舟山山頂など）

3 JR 高山線や路線バスの実地調査

期日：令和7年1月23日(木)～24日(金)

場所：高山地域、一之宮地域、久々野地域（濃飛バスにて乗車移動）



意見交換会（一之宮地域）



現地調査（ツメタの大イチイ、舟山山頂）

【成果等】

- ・JR 高山線と濃飛バス下呂線それぞれの時刻表を一つのダイアグラムにまとめてみると23.5往復となり、非常に利便性が高い。実際に路線バス等に乗って移動してみたところ、高山市中心部から両地域にインバウンド等を誘うのに十分であることが明らかになった。
- ・一之宮地域及び久々野地域の地域資源と公共交通機関を絡めたコース設定の可能性の提示に加え、両地域における旅の過ごし方のパターンと必要な取組みを示すとともに、資源発掘と提示の方法の考え方や共通乗車券社会実験などの具体的な提案をとりまとめた。
- ・今後の方向性として、支所地域に人々が来訪し始めて定着した後に、支所地域がより個性を発揮しつつ、更に成果を広げていくための取組みとして、空き家活用、食文化の発掘と流通、スモール・ビジネスの3点に整理した。
- ・令和7年度は、両地域に加え、朝日地域、高根地域について調査研究を行う。

大学等と連携した中小企業の研究開発支援

【事業名】

端材等を活用した木工体験用の新商品「やまぼぼ」（ペン立て）の開発
（産学金官連携等促進事業補助金活用事業）

【実施主体】

日進木工株式会社

【連携大学】

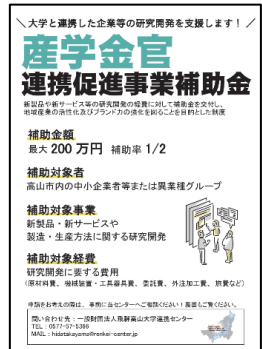
文教大学 国際学部 国際観光学科

【目的】

産業観光とSDGsの推進を目的として、地元企業と大学とで、家具製造所を訪れた観光客が、自身で組み立て、お土産として持ち帰ることのできる木工製品（端材を活用）を共同開発する。

【実施概要】

- 大学側：現地調査、新商品のコンセプト及び具体案等の提案、名称及びプロモーション戦略の提案
- 企業側：新商品（案）の絞り込み、試作品の制作、ワークショップの実施、観光サイトへの掲載



観光・旅行予約サイト「VISIT 岐阜県 人気のおすすめ体験・観光予約サイト」に掲載



学生との意見交換



木工体験のシミュレーション



「やまぼぼ」のバリエーション

将来的なU・I・J ターン就職や地元定着、関係人口の獲得を視野に入れ、大学が実施するフィールドワークやゼミ合宿などの様々な活動を誘致・支援し、多くの大学生が来訪・滞在・活動する高山市を目指して、大学ミッション事業に取り組んだ。

大学活動の支援メニュー

- ゼミ合宿等に活用できる補助制度の案内、申請手続きの支援
- 市内で実施可能なゼミ内容や行程の提案
- 調査、研究などに必要な資料提供や事前講義
- ヒアリングや取材等への協力企業や団体、地域のキーパーソンとのアポイント取得の代行
- サテライトキャンパス（活動拠点）の提供、斡旋、紹介
- アンケート調査等に伴う施設使用手続きの代行
- 活動成果報告会等の開催支援
- 宿泊施設や食事場所などの情報提供
- 必要物品（プロジェクター、PC、音響設備、ポケット Wi-Fi など）の貸出
- アテンド対応、その他各種相談へのワンストップ対応 など

大学のゼミ合宿等の活動に対する支援（ゼミ合宿等支援事業補助金）

【目的】

高山市内で行われる学生活動を促進し、交流人口や関係人口の拡大により、地域の活性化を図る。

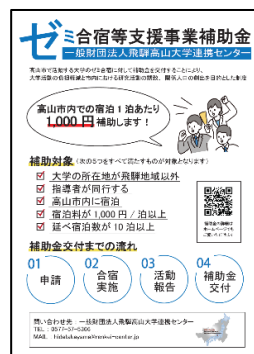
【補助対象事業】

- ・飛騨地域以外に所在する大学等の団体が行うゼミ合宿等で、指導者が同行すること
- ・高山市の宿泊施設に宿泊し、当該宿泊施設に支払う宿泊料が 1 人 1 泊あたり 1,000 円以上であること
- ・延べ宿泊人数（学生及び指導者の参加人数に宿泊日数を乗じて得た数）が 10 人以上となることに該当するもの

【補助金の額】

- ・延べ宿泊人数に 1,000 円を乗じて得た額とし、1 団体 1 回あたり 20 万円を限度

【交付実績】 63 件・延べ 3,397 泊



大学ゼミ合宿等(國學院大学、岐阜女子大学、文教大学、愛知大学)

主な受入大学

名古屋学院大学 外国語学部

【日 程】 調査研究：リモート1回

【参加者数】 55人（教員1人、学生54人）

【活動概要】 ホスピタリティ演習でのゲストスピーカー講義受講

- ・観光地域づくり法人（地域DMO）について
- ・歴史遺産を活用した観光地づくり
- ・滞在型・通年型の観光地づくり
- ・国際化への取組み など

【成 果】 高山の魅力や観光の取り組みを鮮明に知ることができた。これからの課題演習や研究発表、将来の進路等にとって大変有益であった。

- ・アクセスが良く、珍しいものがあれば有名観光地になれるのではなく、多くの工夫や取組みがあつてのことだと気づくことができた。
- ・多くの学生が、飛騨高山を是非訪れたいと強く思った。



名古屋経済大学 経済学部

【日 程】 調査研究：2泊3日

【参加者数】 17人（教員等1人、学生16人）

【活動概要】 高山中心市街地における食料品アクセスに関する調査

- ・空町まちづくり協議会からの現状説明
- ・空町エリアでの世帯ヒアリング
- ・高山米穀協業組合城山営業所での販売実践
- ・高山米穀協業組合の御用聞き事業への同行体験

【成 果】 令和3年から継続的に調査研究に取り組んできたこともあり、今回、1日限定スーパーの営業といった実践的取組みへと活動を発展させることができたのは大きな成果だった。

- ・多くの高齢者は自動車や自転車を乗りこなし、まだまだアクティブに買い物行動をしていることや、買い物を楽しむといった付加価値がないと実際には足を運んでももらえないなど、実践的取組みを通じて地域の実情を改めて正確に知ることができた。



國學院大學 観光まちづくり学部

【日 程】調査研究：2泊3日

【参加者数】9人（教員1人、学生8人）

【活動概要】山村の生活及び地域環境の変化に関する調査

- ・丹生川地域久手集落の視察
- ・久手集落ヒアリング（合同・個別）
- ・中心市街地の視察

【成 果】・山村環境の変化や世代ごとの環境に対する関わり方の違いについて多くの情報を収集することができた。
・飛騨大鍾乳洞や古い町並、朝市、村半等を見学し、飛騨高山地域の魅力について体験的に学ぶことができた。



愛知大学 地域政策学部

【日 程】調査研究：1泊2日、報告：1泊2日

【参加者数】調査研究17人（教員1人、学生16人）、報告11人（教員1人、学生10人）

【活動概要】高根地域未来戦略の策定への参加

- ・高根地区内の状況視察
- ・団体代表者等との意見交換
- ・地元住民へのヒアリング
- ・調査研究成果の報告と意見交換

【成 果】・高根町の住民が思い描く地域未来戦略の意義や課題について知ることができた。
・高根町における新たなツーリズムの可能性について深く考察することができた。
・高根町の住民に対し、高根地域における持続可能な地域をつくるための高付加価値型ツーリズムの展開について具体的な提案を行うことができた。



大阪体育大学 バスケットボール部

【日 程】練習と交流：5泊6日

【参加者数】18人（指導者1人、学生17人）

【活動概要】夏季練習合宿

- ・久々野体育館にて実施
- ・チーム強化のための練習
- ・高山西高等学校との練習試合
- ・市内小学生対象クリニックの実施

【成 果】・涼しい環境で練習に打ち込めることができ、とても良い合宿となった。

・高山西高等学校との練習試合は、留学生との対戦の対策になった。

・地元小学生との交流は、教員志望の選手にとって良い実習の場となった。



名城大学 陸上部

【日 程】練習：3泊4日

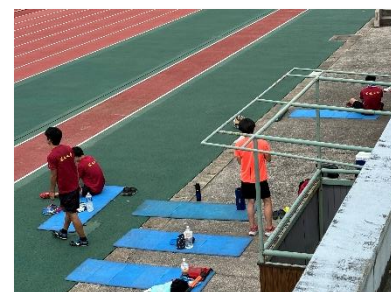
【参加者数】30人（指導者1人、学生29人）

【活動概要】夏季練習合宿

- ・中山運動公園陸上競技場にて実施
- ・10月の秋季選手権大会での入賞、自己記録更新に向けた強化練習

【成 果】・名古屋より10℃近くも気温が低く、気持ちの良い暑さの中で練習を始められた。その後も天候に恵まれ、予定していた練習計画をしっかりと消化できた。

・民宿という宿泊環境の中で、最初は上手に時間を使うことが出来なかったが、時間が経つにつれて慣れ、共同生活の意味や意義も理解できた。



金沢学院大学 陸上競技部

【日 程】練習：3泊4日

【参加者数】5人（指導者1人、学生4人）

【活動概要】夏季大会に向けた強化合宿

- ・飛騨御岳高原高地トレーニングエリアで実施
- ・低圧低酸素の環境でのトレーニング

【成 果】・選手権大会の代表4名の選考を行った。

- ・「リマ 2024 U20 世界選手権大会」に出場する選手も参加した。
- ・選手たちは持久力と精神力を大幅に向上させ、飛躍的な成長を遂げることができた。



岐阜女子大学 書道部

【日 程】練習と交流：2泊3日

【参加者数】49人（教員等6人、学生43人）

【活動概要】作品の制作と飛騨地域の書道教育への寄与

- ・光ミュージアムにおいて実施
- ・展覧会応募作品の制作
- ・市内高校生への指導

【成 果】・展覧会応募用の作品の制作ができた。

- ・高山市で10年以上にわたって夏季錬成会を通じた作品制作を続けており、市内高校生が参加して大学生の作品制作の様子を見学するなど、学びの場が広がっている。



斐太高等学校地域活性化プログラム研究活動に対する支援

【目的】

高校生が行う地域の持つ魅力や地域が抱える課題を探究する活動を通じて、地域活性化や高校生に郷土愛やシビックプライドが醸成されるよう、探求活動に関する指導、助言、情報提供、取材の仲介などの支援を行う。

【実施概要】

- ・ 研究の進め方に関する講話
- ・ メールによる指導、助言、情報提供、取材の仲介（随時）
- ・ 発表者への発表方法に関する個別指導

【成果等】

- ・ 今回のプログラムでは、個人ごとにテーマを設けて活動することで、これまでのようなグループとしての意見統一が不要となり、効率面で有益な点があった。また、最初から最後まで一人で組み立てる経験も得られた。研究を進める中では、仮説の崩れが新たな発見に繋がり、実践的な学習や効果的な発表技術が重要なスキルとして認識された。また、個々の興味に基づく研究が参加者にとって楽しいものであることも示された。



テーマ設定の指導



相談会の様子



FRH Hida.T-Academia 発表会

飛騨高山学会の開催

【実施形態】

高山市委託（受託）事業

【目的】

『地域住民や地元小中高校生が大学や大学生と繋がる』、『地元企業や経営者と大学が繋がる』、『飛騨高山のまちづくりと先端的な手法・提案・技術が繋がる』、『大学生の情報発信により、飛騨高山が国内外の多くの人と繋がる』、『大学同士、大学生同士が飛騨高山を通して繋がる』ことを目的に、自治体シンクタンク事業や大学コミッション事業、高校生の学習支援などを通じて実践した調査研究活動の成果を報告する発表会を、大学や大学生、地元の高校生、そして地域住民が集って開催する。

【実施概要】

名 称：～繋がるキャンパス～ 第6回飛騨高山学会

実施日：令和6年11月30日(土) 午後1時00分～午後4時50分

令和6年12月1日(日) 午後1時00分～午後5時20分

会 場：飛騨・世界生活文化センター飛騨芸術堂

発表者：20組（11月30日：10組、12月1日：10組）

《大学》文教大学（3組）、名古屋大学（2組）、

愛知大学（2組）、東京都市大学（2組）、

目白大学（2組）、岐阜大学、岐阜協立大学、松本大学、

名古屋経済大学、同朋大学、名古屋外国語大学

《高等学校》飛騨高山高等学校（2組）、斐太高等学校

出展等：14大学、2高校、4団体

参加者：来場者約440人、ライブ映像視聴者延べ約550人

【成果等】

- 発表者からは、「発表しやすい空気、また質疑応答を十分にすることができ、非常に良い経験となった」といった意見や、「高山市に関する調査研究を継続したい」、「今後も何らかの形で高山市に関わっていききたい」といった発言があり、関係人口の拡大に向けて一定の成果があった。
- 来場者からは、「高校生や各大学の方々が高山のことを真剣に考え発表していただくことで、この地で生きていく勇気を与えられてうれしい」、「大学生が参加してくれることが、当地域への関り、愛着がわき、波及効果が見込めるとともに、市の課題解決につながることも期待できる」、「飛騨高山が、すべての人の自立と成長を育む地でありたいと願う」といった意見があり、一定の評価が得られた。



発表ステージ



来場者からの質疑



出展ブース

ウェブサイト・SNS 等による情報発信・情報提供

- 当センターの事業や活動状況などをウェブサイト、Instagram で広く発信



ウェブサイトに学会のアーカイブや資料を掲載



大学生の活動等を発信

一般財団法人

飛騨高山大学連携センター



一般財団法人 飛騨高山大学連携センター

〒506-0032 岐阜県高山市千島町 900 番地 1

飛騨・世界生活文化センター内

TEL : 0577-57-5366 FAX : 0577-57-5377

ホームページ : <https://www.renkei-center.jp/>

一般財団法人飛騨高山大学連携センター



Instagram : https://www.instagram.com/hida_takayama_r.c.r.r/

